職場討議資料

JR西労組 WEST UNION

西日本旅客鉄道労働組合
〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL06-6375-9869㈹ JR071-7155㈹
(FAX)06-6373-4133 JR071-7151
発行責任者 荻山 市朗
編集責任者 宮野 勇馬

JR西労組「次代の運動指針」

結成25年を越え、将来に責任の持てる運動を持続・発展させるために

2017年6月

昨年12月6日にJR西労組は結成25周年をむかえ、本年4月1日には国鉄改革を経てJR西日本が発足して30周年となりました。

昨年12月6日ホテルグランヴィア京都で開催した「結成25周年記念集会」において、JR西労組運動の成果と課題を振り返り、将来にわたってJR西日本グループの健全な発展と共に、組合員と家族の皆さんが、安定した雇用のうえに、豊かで充実した人生を送ることができるよう、今後の責任ある運動の基調とすべきJR西労組「次代の運動指針」を提起し、2月に開催された第34回中央委員会において、今後この運動指針をJR西労組組合員の中で共有化してくことを確認しました。

今後の私たちを取り巻く環境や将来展望は、少子化・人口減少による輸送量の減少や、労働力不足など、決して楽観できるものではありません。ぜひ「指針」をご一読のうえ、JR西労組運動に積極的にご参加いただくようお願いします。

目 次

■なぜ「次代の運動指針」を策定するのか
1.歴史を振り返り学ぶべきこと …… 2
2.持続的な発展へ責任ある役割を果たそう …… 4

■JR西労組の運動の目的
1.将来にわたって組合員と家族の利益を守り幸せを築く …… 6
【組合員に対して】
2.安全を基礎にJR西日本グループの健全な持続的発展を支える …… 6
【会社に対して】
3.JR西日本グループに働く者を代表して社会の発展に貢献する …… 6
【社会に対して】

■次代の運動指針
ー組合員・会社・社会に対し責任組合としての役割をいかに果たすかー
1.安全の確立を最優先に取り組む …… 7
2.「対立と協力」を基本に責任ある企画提案運動を推進する …… 7
3.自由で民主的な労働運動を推進し、一企業一組合を追求する …… 8
4.労使の真の信頼関係を継続、発展させる …… 9
5.多様性を尊重しすべての組合員が活躍できる環境を築く …… 10
6.社会に貢献し役割を発揮する …… 11

■指針を実践するために
ー全員参加で信頼される組織と運動を築こうー …… 12

結成25周年記念集会にて「次代の運動指針」を提起

JR西労組「次代の運動指針」

なぜ「次代の運動指針」を策定するのか

1.歴史を振り返り学ぶべきこと

大変な雇用不安と社会の支援を経て JRが発足したことを忘れてはならない

1987年4月1日、大阪駅で開かれたJR西日本オープニングセレモニー

国鉄は、政治の影響を大きく受ける中で、労使ともに責任が欠如した経営、運動を続けてきた結果、サービスの低下と利用離れが進み、赤字を毎年拡大して、社会の信頼を失っていきました。最終的に、鉄道の再生のためには国鉄を分割・民営化するしかないとの結論に至り、１９８７年４月に国鉄改革が断行され、ＪＲ各社がスタートしました。そして、改革の過程において、７万６千名が鉄道を去るという大変な雇用不安を経験し、多くの不幸を惹き起しました。

一方、公的な企業や機関などで雇用の受け入れに協力いただいたほか、３７兆円にまで膨らんだ年金など将来費用を含めた累積赤字は、ＪＲの負担や国鉄の資産売却を充当してもなお残る２３兆円を国民負担で処理することとなりました。社会の多大な支援を受けて国鉄改革が実現したことも忘れてはなりません。

このように、大変な雇用不安、社会の理解と協力のうえに、ＪＲが発足し今日に至っていることを再認識する必要があります。二度と国鉄倒産の失敗、雇用不安を繰り返さず、社会に信頼される存在として役割を発揮していくことが、ＪＲ西労組運動の原点のひとつです。

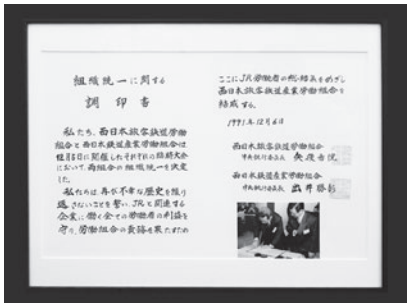
旧国鉄の長期債務をJRに追加負担させる政府の方針に反対する抗議行動（1998年）

自由で民主的な責任ある JR西労組の結成の意義を認識しよう

また、国鉄改革・ＪＲ西日本発足の後も、民主的な労働組合の結成へ大変な苦労が重ねられました。

スト権委譲の問題をきっかけに、ＪＲ総連との関係を断絶し、革マル派勢力を排除した旧ＪＲ西労組と、

旧JR西労組と西日本鉄産労が組織統一を行い、現在のJR西労組が誕生した（1991年12月6日）


組織統一に関する調印書

勇気と良識を持ち国労と決別して結成した西日本鉄産労の両組織が、ＪＲ西日本の発足から４年８カ月を経て1991年12月に統一したことで、組合員と家族、会社、社会に責任を果たし得る、自由で民主的なＪＲ西労組が誕生しました。

そして、幾多の苦難を乗り越え、組織を着実に拡大し、今日、組織率９３．６％のＪＲ西日本グループを代表する責任組合となることができました。

しかし、残念ながら、過去の反省もなく階級闘争を進める国労や、革マル派の影響を受けて独善的な運動を展開するＪＲ総連・西労という少数組合が今なお存在しています。無責任な労働運動が国鉄を倒産に至らしめた歴史を忘れず、自由で民主的な責任あるＪＲ西労組の結成の意義を認識し、私たちは、将来にわたって責任ある役割を果たしていく必要があります。

福知山線列車事故を絶対に忘れず悲劇を繰り返してはならない

さらに、ＪＲ西労組の運動の原点として、２００５年４月２５日にJR西日本が惹き起こした福知山線列車事故を決して忘れてはなりません。

事故に至る経過において、国鉄改革以降の成功体験のうえに自信が過信となり、会社の経営姿勢が謙虚さを失ってきたことも事故の要因のひとつであり、私たちＪＲ西労組もこれに対して、チェック機能を果たせなかった力不足を反省する必要があります。

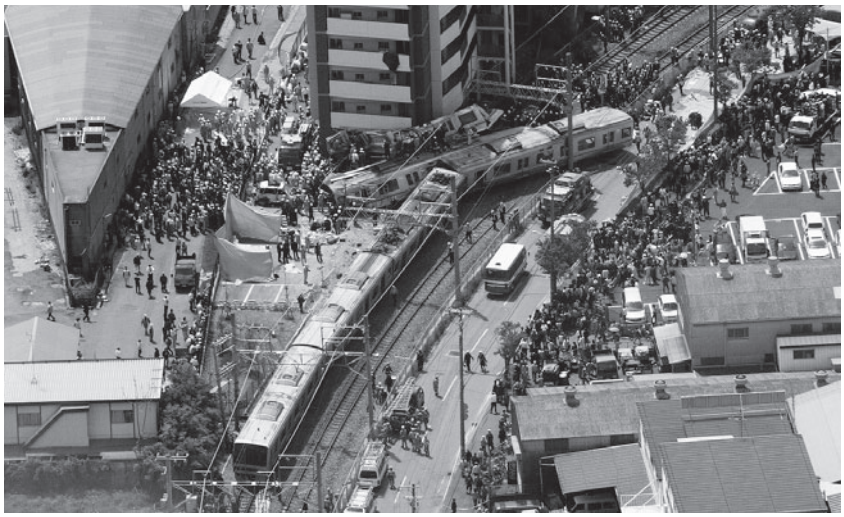
福知山線列車事故以降、毎年4月25日に開催している
「事故を決して忘れず、安全を誓う集い」

事故後、労使の徹底した議論を通じ、会社は、安全はもとより、社会に対しても謙虚に向き合う方向へ姿勢を大きく転換させてきました。安全に関しては、原因究明と再発防止、ヒューマンエラーに対する認識を改め、労使をあげて「安全考動計画2017」の実践に全力で取り組んでいるところです。

今後も福知山線列車事故の反省と教訓を胸に刻み、悲劇を絶対に繰り返さないために、安全確立を永遠の最優先課題、運動の原点に位置付けて取り組むこととします。

安定した雇用や地位、労使関係は先人の努力と社会の支援によるものである

今日、ＪＲ西日本グループの堅調な経営の下で、安定した雇用、賃金をはじめとする経済的、社会的な地位を確保し、健全な労使関係を享受できているのは、先輩方の努力の積み重ねや、また、国鉄改革時に多くの仲間の雇用を受け入れていただくなど、私たち労使に対する理解や協力を賜ってきた社会の多くの方々のおかげであることを忘れてはなりません。


2005年4月25日に惹き起こした福知山線列車事故

2.持続的な発展へ責任ある役割を果たそう

人口減少や労働力不足など、厳しさの増す時代において、今日の私たちの地位や環境が、今後も当たり前に続くものではありません。将来にわたって、安全を基礎に、ＪＲ西日本グループ労使の健全な発展を通じ、組合員と家族の皆さんの雇用や豊かで充実した生活を守り、幸せを増進させ、社会への貢献を果たしていけるよう、私たちは不断の努力によって責任ある運動を持続していかなければなりません。

そのために、「次代の運動指針」を提起し、組合員の全員参加でこれを実践していかなければならないと考えています。

そうした問題意識のうえに、とくに留意すべき背景やポイントを提起します。

急速に進む世代交代の中で運動の継承が求められる

現在、ＪＲ入社世代が組合員の６割を占めて運動を担っており、国鉄改革やＪＲ西労組結成の歴史を経験していない世代が中心層となっています。

さらに、福知山線列車事故の発生以降に入社した組合員も1万人を超えました。国鉄改革前後に採用を停止していた影響によって、10年以上の年齢断層が存在しているうえに、今後、国鉄入社世代の組合員はシニア・シニアリーダー組合員となり、世代交代が急速に進むことが想定されています。職場で若手とベテランがともに仕事や組合活動を行えるこの時期だからこそ、歴史を振り返るとともに、今後のあるべき責任ある運動を一緒に考え、共有し、実践することを通じて、実効性のある運動の継承と、次代への創造を進めなければなりません。

JR西労組運動の次代への継承が大きな課題として議論される
青年女性委員会 定期委員会

しかし、残念ながら、ベテラン組合員が運動から遠ざかる傾向もみられます。役職を譲ることが継承ではありません。ベテランと若手がともに参加し、連携して次代の運動を築いていただくようお願いします。

人口減少や労働力不足など今後の厳しい環境にどう向き合うか

日本社会は、人口減少、少子高齢化、労働力不足など急速に環境が変化しており、これらが鉄道事業に大きな影響を与えることは必至です。すでに、グループ、協力会社では人手不足が深刻化しています。

こうした社会の変化に対応するために、業務内容の見直しや働き方の改革など、中長期の視点から構造的な課題の改善に取り組み、安全を基礎に、ＪＲ西日本グループの安定的な発展を持続するとともに、人材を確保し長期雇用できる環境、労働力不足の環境下でも安全を確保し、快適なサービスを提供できる職場を構築することなどが求められます。こうした問題意識のうえに、次代の責任ある運動を進めていくことが求められています。そのために、ＡＩ（人工知能）やＩｏＴ（モノのインターネット）など、技術革新の活用も視野に入れた検討も進める必要があります。

多くの若手組合員がイベントに参加し交流を深めている

新たに求められる重要課題への対応を強化しなければならない

この２５年間で、重要性が大きく高まった以下の課題について、次代の運動の柱に位置付けて取り組みを強化することとします。

まず、経営面からもグループ会社の重要性が飛躍的に高まってきました。ＪＲ西日本連合も１９９２年の発足時の１４組合から５１組合、４万１千名に拡大しました。グループに働く仲間との連携のうえに、安全の確保、安定雇用の継続、賃金をはじめとする地位の向上にむけた取り組みをさらに充実していくこととします。

また、働く意欲の源泉となる家庭の充実、ワーク・ライフ・バランスの推進への対応を強化する必要性も高まっています。男女平等参画、育児支援、介護支援、女性活躍推進、シニア・シニアリーダーの働きがい向上、労使で進めている「働き方の改革」を含めた長時間労働の是正、生産性向上と労働力不足への対応などの課題が山積しており、組合員や職場の意見や実態を踏まえた、企画提案運動による問題解決を進めなければなりません。

様々な組合員の立場を認め合い、グループを含めたすべての組合員が活躍できる環境づくり（ダイバーシティ）も次代の運動の重要な課題です。

ＪＲ西日本連合には51組合、41,000名が集結している

ＪＲ連合結成大会（1992年5月18日）

社会に対してもいっそうの役割を果たしていく責務がある

ＪＲ西日本グループの役割は、鉄道を核に地域の発展を支えることであり、社会の理解や協力があったからこそ、今日の労使の発展が築かれていることも忘れてはなりません。今後も社会に貢献し、信頼を得る存在でなければならないと考えます。ＪＲ西労組はＪＲ連合の中核をなす組織であり、ＪＲ全体や公共交通の発展のためにも責務を果たしていかなければなりません。

さらに、労働組合は働く者を代表する健全な社会的な勢力であり、社会の諸制度やワークルールなどの秩序や基準を築く重要な役割を担っています。連合運動の一翼を担い、社会や政治への適正な影響力を行使し、社会の発展のために積極的に関与していくことも大切な使命です。

地域の皆様と一体になって取り組んだ、可部線「乗って残そう」運動

JR西労組の運動の目的

1.将来にわたって組合員と家族の利益を守り幸せを築く

【組合員に対して】

神戸地本で開催された女性集会

ライフプランセミナー

私たちは二度と雇用不安を惹き起こさないために、安定雇用の確保を最優先して取り組みます。そして、組合員と家族が豊かで充実した幸せな人生、働きがいの持てる職業生活を送ることができるよう、賃金や労働条件、職場環境の改善、福祉の増進などに取り組み、社会的、経済的な地位の向上を進めていきます。

2.安全を基礎にJR西日本グループの健全な持続的発展を支える

【会社に対して】

私たちが働くＪＲ西日本グループの社会的使命を自覚し、福知山線列車事故の悲劇を絶対に繰り返さないよう、職場からの安全確立を最優先課題に位置付けて取り組むとともに、社会との共生を通じ、鉄道を核に地域を支え、信頼される社業の健全な経営を持続、発展させるために積極的に取り組みます。

福知山線列車事故から10年を機に作成した、「ＪＲ西労組安全提言」

3.JR西日本グループに働く者を代表して社会の発展に貢献する

【社会に対して】

ＪＲ西日本グループの社業を通じての社会貢献はもとより、働く者を代表する健全な社会的な勢力としての役割を自覚し、ＪＲ連合の中心組合として、また、連合運動の一翼を担い、社会の発展、とりわけ鉄道や公共交通の発展のために取り組みます。

連合主催の「メーデー」にも、各地で多くの組合員が参加

熊本地震復興ボランティア活動

この目的を実現するために取り組むべき課題や方針について、「次代の運動指針」を提起します。

次代の運動指針

―組合員･会社･社会に対し責任組合としての役割を持続的にいかに果たすか―

1.安全の確立を最優先に取り組む

福知山線列車事故を決して忘れず、グループを含めた職場からの安全確立を最優先課題に位置付けて取り組みます

●福知山線列車事故の悲劇を絶対に繰り返してはなりません。事故の反省と教訓を胸に刻み、事故を決して忘れない取り組みを徹底して継続するとともに、安全の確立を永遠の最重要課題に位置付けて安全の確立に全力をあげます。

●ＪＲ西労組は、職場の意見や課題を最も的確に把握できる強みを持っています。この強みを生かし、JR西労組「安全提言」を職場で活用しながら危険や不安を放置することなく指摘し、潜んだリスクの把握や課題解決のための問題提起をはじめ、グループや協力会社を含めた職場からの安全確立に取り組みます。

●安全衛生委員会を待受け型の運営とせず、職場の意見や課題を集約して積極的な議論を通じて活用するほか、現場長とのコミュニケーションを深めて、職場の身近な課題は、できる限り職場で解決するための取り組みも強化します。

2.「対立と協力」を基本に責任ある企画提案運動を推進する

組合員の雇用と生活に責任を持ち、持続性、安定性を重視し、「対立と協力」を基本に、企画提案運動を推進して経営へのチェック･提言機能を発揮します

●ＪＲ西労組の運動理念は「対立と協力」です。私たちの生活の基盤であるＪＲ西日本グループの健全で持続的な発展に協力する一方で、労使の真摯な協議を通じて、組合員への利益の公正な分配を求めます。雇用の確保を最優先するとともに、賃金をはじめとする労働条件、働きがいや福祉の増進、安心して働ける職場環境づくりを実現します。

●取り巻く環境の変化や会社の提案などを待つだけでなく、私たちの側から、ＪＲ西労組の強みを活かした企画提案運動を推進します。

労使協議にあたっては、職場の実態と課題などを把握、分析するとともに、とりわけ人口減少や労働力不足をはじめとする環境の変化や社会の動きを捉えて、どのように対応すべきかを検討し、働く者の側からの的確な要求、提言をまとめたうえで、その実現を求める積極的な姿勢で取り組みます。

避けられない環境変化に対しては、先見性や柔軟性を持って、将来展望や組合員と家族の利益のためにあるべき方向を議論し、責任ある対応を進めることが必要です。

●会社が不正確、不十分な情報を基に、誤った判断をすることもあります。職場の実態や組合員の意見に基づくことはもちろん、会社の利害にとらわれず、地域、社会、政治との連携を通じて情報や影響力を持つことのできるＪＲ西労組の強みを活かして、経営方針や施策に対するチェック能力、企画提案能力を発揮し、必要な補強や修正も行い、労使の健全な発展につなげるために取り組むこととします。

●私たちは将来にわたっての持続的な発展を重視し、「今だけ」の視点ではなく、中長期の視点から将来を見据えた責任ある企画提案運動を進めます。

3. 自由で民主的な労働運動を推進し一企業一組合を追求する

参加型の開かれた運営、コミュニケーションの充実のうえに、組合員に信頼されるJR西労組を築くとともに、一企業一組合を目指して取り組みます

●組合員の利益よりも組織のイデオロギーや方針を優先し、経営にも無責任、無関心な姿勢で、社会に背を向けて活動してきた誤った階級的労働運動が、国鉄の倒産の大きな原因のひとつとなった歴史を忘れてはなりません。企業の倒産は雇用不安を生み、最も弱い立場にある組合員と家族を大きな不幸に陥れます。ＪＲ西労組はその反省のうえに、将来にわたり、組合員、会社、社会に責任の持てる自由で民主的な労働運動を進めていくこととします。

●そのための基盤として、組合員から信頼される魅力と求心力、団結力のあるＪＲ西労組の組織と運動を築くことが何よりも大切です。日頃の世話役活動を強化して、組合員とのコミュニケーションを深める活動を進め、ＪＲ西労組の運動が共有されるよう、わかりやい「見える化」の取り組みを通じて組合員の参加を促進します。

また、「仲間の助け合い」を原点に据え、組合員に寄り添う姿勢を大切に、弱い立場にある組合員や困っている組合員を助ける活動、不幸な組合員をつくらないための活動を重視して取り組みを進めます。

●分会が職場、組合員の実態、意見、要望をきめ細かく把握するとともに、分会長や分会役員と現場長とのコミュニケーションを深め、安全衛生委員会の有効活用を含めて、職場の課題はできるだけ職場で解決できるよう日頃の活動を充実、強化します。

●組合員の年齢断層を意識し、ベテラン、若手がともに参加、協力しながら、ＪＲ西労組の組織と運動の継承を進めます。最近は国鉄入社世代が組合活動から遠ざかる傾向がみられますが、これまでの経験を伝え、若手を支援する取り組みを促進していきます。

　また、青年女性委員会と基本組織との連携を深めるとともに、青年女性委員会を卒業した後も組合活動に継続して参加できる環境をつくり、理解と意欲のある役員の育成を進めます。

　さらに、系統間の連携、C層とLM層との連携なども充実させ、様々な立場の意見を理解、尊重しながら運動を進めることとします。

●地本や総支部などの各機関は、形式的、受動的に運動を消化するのではなく、ＪＲ西労組の方針に則ったうえで、それぞれの創意と活力を発揮し、参加型の主体的な活動を展開する、いわば「合衆国型」の運動を目指して取り組みます。

●ＪＲ労働界には、今なおイデオロギーを優先し、組合員不在で会社の発展を阻害する無責任な階級的労働運動、過激派が影響力を行使する独善的な運動が存在しています。私たちの雇用や生活、労使の発展を破壊させるわけにはいきません。過去の歴史の反省と教訓のうえに、こうした勢力を許さず、一企業一組合の実現を目指すとともに、ＪＲ連合民主化闘争の推進にも積極的に取り組みます。

4. 労使の真の信頼関係を継続、発展させる

安定した健全な労使関係の重要性を相互に認識し、労使の信頼関係を継続、発展させるとともに、その裏付けとなるJR西労組の能力を高めます

●安定した健全な労使関係は、労使の相互の理解と努力によって築かれてきたことを忘れてはなりません。将来にわたって、互いの立場を尊重したうえで、真摯で建設的な議論のできる強固な信頼関係を継続、発展していけるよう、労使双方で取り組みます。

　具体的には、労使関係の重要性について、ＪＲ西労組が組合員の理解促進に努める一方で、会社に対しても、経営幹部や管理職が同様に理解し行動するよう対応を求めます。

●労使の信頼関係の維持、発展のためには、会社にＪＲ西労組の要求や提言の重要性を認識させ、聴き入らせるような能力を私たちが持つことも求められます。そのためには、日頃の職場活動を充実させ、組合員からの信頼のうえに、私たちの強みである職場の意見や課題を最も的確に把握できる意見集約能力や要求提言能力を研く必要があります。

　また、会社と良質な緊張感を持つことのできる、いわば牽制能力を高めるために、組織の求心力、団結力を強化することも求められます。さらに、社会や政治との関係を強化し、それぞれの信任を得て、影響力を強化するよう取り組むこととします。

5. 多様性を尊重しすべての組合員が活躍できる環境を築く

**グループ会社に働く仲間との連携強化、ワーク・ライフ・バランス推進など
新たな課題への対応を充実し、組合員の多様な立場や環境を認め合い、
すべての組合員が生き生きと活躍できる職場づくりを進めます**

●私たち組合員と同様に、グループに働く仲間の幸せを築くこともＪＲ西労組の任務です。グループ労組の目線に立って寄り添う姿勢で対応することが必要です。そのために、ＪＲ西日本連合の運動を支援、強化し、ＪＲ西日本グループ会社、さらに協力会社の安全を基礎とする健全な発展を通じて、働く仲間の安定した雇用の確保、賃金をはじめとする処遇の改善と格差の是正、職場環境の充実、福祉の充実など、社会的、経済的な地位の向上にむけた取り組みを強化していきます。

●家庭の充実、ワーク・ライフ・バランスの推進が、働く意欲の向上のために非常に重要であることをさらに意識して取り組むことが求められています。ＪＲ入社世代の多くの組合員が、結婚・出産・育児のステージを迎えていること、女性組合員が増加し活躍の場が広がっていること、ベテラン層を中心に介護ニーズも高まっていることなど、私たちが置かれている環境の変化を踏まえてきめ細かな対応を充実させることが求められています。今後拡大するシニア・シニアリーダー組合員の働きがいの向上も重要な課題です。これらの課題は、グループを含め、労働力不足への対策の視点も踏まえて取り組むことも必要です。

　労使をあげて進めている「働き方の改革」については、泊り勤務、変形勤務が中心である鉄道の職場の特性も踏まえ、私たちの企画提案運動によって具体的な課題を克服し、実効性のある仕事と家庭の両立支援の取り組みを進めます。

●組合員の立場や環境などの多様性が拡大する中で、それらを尊重し、すべての組合員が様々な働き方を選択しながら、意欲を持って働き続けられる職場環境づくりを進めます。

　育児や介護など制約のある中で働く組合員が活躍できる環境をつくることは、その期間は一定の配慮が必要だとしても、本人はもちろん、会社にとっても、経験や技能を生かして働き続けてもらうことのメリットは非常に大きいといえます。

　こうした取り組みが長時間労働の是正や生産性の向上などにつながり、人口減少や労働力不足に対応するためにも労使双方にとって非常に重要であることを認識し、「職場のあり方提言委員会」を通じた企画提案運動を進め、課題解決にむけた労使協議を強化していくこととします。

●組合員の豊かで充実した人生を築くためには、賃金や諸制度の改善だけでなく、キャリアプランやライフプランなどについて関心を持ち、一定の目標や計画を立てながら人生を設計できるような組合員の側の積極的な姿勢も求められます。そうした意識を高めることで、働きがいの向上や老後を含めた財産形成につながり、人生を豊かにするとともに、不幸な組合員をつくらないことにも役立ちます。また、政治意識の高揚にもつながると考えます。

　そのために、福祉活動のいっそうの充実に努めるとともに、ライフプランセミナーの充実をはじめ組合員の自立をサポートする取り組みも推進していくこととします。

6.社会に貢献し役割を発揮する

JR連合の中核組織として、連合運動の一翼を担い、交通運輸産業の発展はもとより、働くことを軸とする安心な社会づくりに貢献し、役割を発揮します

●労働組合は勤労者を代表する健全な社会勢力であり、連合が様々な社会制度やワークルールづくりを主導し、組合のない労働者を含めて雇用や生活、秩序を守っています。また、ＪＲ連合は、ＪＲに働く者を代表する産業別労働組合として、ＪＲはもとより、交通運輸産業の持続的な発展に大きく寄与しています。

　ＪＲ西労組は、ＪＲ連合の中心的な組織としての自覚を持ち、また、連合運動の一翼を担い、それぞれの運動を積極的に支える責務があります。そのことを通じて、自由、公正、平等、平和で、働くことを軸とする安心な社会づくりに貢献し、役割を発揮するために取り組んでいきます。

●公共交通政策や地域活性化、まちづくりに関して、ＪＲ連合と連携し、「交通政策基本法」の理念に基づき、ＪＲ、鉄道、バスをはじめとする公共交通が特性を活かして役割を発揮し地域に貢献できるよう、また、地域が主体的に事業者と連携して持続的に取り組みを推進していけるよう、働く者の側からも積極的に働き掛けを行います。

●連合、交運労協の活動への参加、地域における共闘活動の推進を通じて、働く仲間との相互理解を深めるとともに連帯を強化します。

●地域を支えるＪＲ西日本グループの経営や、私たちの雇用や生活が政治と深い関わりがあることを認識し、政治活動にも積極的に取り組みます。

　まず、日頃の身近な取り組みを通じて、組合員と家族の政治に対する理解や関心を深め、「交通政策をすすめる会」への加入や選挙活動を含めて参加を促進します。また、地方議会ではＪＲ西労組議員団、国会ではＪＲ連合国会議員懇談会や２１世紀の鉄道を考える議員フォーラムをはじめとする私たちの意見を代弁する議員との連携を強化し、ＪＲに関わる課題はもとより、社会的な課題の解決に取り組みます。さらに、ＪＲ連合、ＪＲ西労組の組織内議員の育成にも努めます。

指針を実践するために
―全員参加で信頼される組織と運動を築こう―

「次代の運動指針」に基づき、具体的な運動を実践していくためには、組合員の皆さんに信頼いただける、魅力、求心力、団結力のあるＪＲ西労組の組織づくりが不可欠です。

「助け合い」を大切に、仲間のコミュニケーションを深めよう

ＪＲ西労組は、ＪＲ西日本グループで働く仲間が、助け合い、お互いを尊重し、生き生きと働ける職場づくりをめざしています。平和で安定した環境の下では、労働組合を水や空気のように意識することがないかも知れません。しかし、会社の経営状態が永遠に順調である保障はありません。また、個人的にも、仕事、家庭、健康面など、誰しも常に順調であればよいのですが、いつ、どのような問題が生じるかもわかりません。

不幸な組合員をつくらないためには、困った時に職場、分会の仲間に相談し、サポートできるような環境をつくることが重要です。

職場レクを通してコミュニケーションが活発に

レクレーションや分会大会、歓送迎会、春季生活闘争の取り組みやアンケートなど、活動に参加することからコミュニケーションが生まれます。支部、分会や青年女性委員会などの役員を中心に世話役活動を進め、ＪＲ西労組の取り組みを知っていただくとともに、意見や要望を伝えたり、困っている仲間の声を聞くなどの取り組みをお願いします。

また、グループ会社の仲間との輪も広げていただきたいと考えます。

三江線廃止の報道を受けて、現場に働く組合員の意見を集約するために開催された職場集会

皆さんの参加が要求実現や課題解決につながる

賃上げを求める春闘では、毎年厳しい闘いが行われる

ＪＲ西労組運動の前進のためには、何よりも組合員の参加と団結が基礎となります。春季生活闘争での賃上げをはじめ、様々な制度の拡充、職場環境の改善など、働く者の要求、要望については、組合員の皆さんが熱意と関心を持って運動に参加いただくことで、会社側の経営判断を引き出すことにつながります。

また、本部や地方本部の段階で問題解決に取り組むだけでなく、職場の現場長や助役など管理者の方々とコミュニケーションを取ることで解決できる問題も多いはずです。職場における労使の信頼関係を深め、組合員の意見や実態を伝えて、身近な問題は職場で解決できるような分会活動を進めたいと考えます。

組合員の皆さんには、この機会に「次代の運動指針」を共有し、ＪＲ西労組がめざす方向をぜひご理解のうえ、組合員と家族のいっそうの発展にむけて、関心を持って、積極的に運動に参加いただくようお願いします。